

令和 6(2024)年度 作新学院大学女子短期大学部 学生 SD 研修報告書

1 日時 令和 7 年 3 月 5 日(金) 11:00 ～ 12:00

2 場所 中央研究棟第 1 会議室

3 参加者

学生 6 名

教職員 6 名

幼児教育科長 坪井先生

学長特別補佐 西田先生

図書館長 兼 地域協働広報センター副センター長 花田先生

学生委員長 井上先生

FD・SD 委員長 兼 教務委員長 矢野先生

事務局 図書情報課 西田

4 研修目的

学生 FD や本学の教育について理解を深めるとともに、FD・SD活動に学生の声を反映させながら本学全体の教育力の向上を目指すべく、学生・教員・職員が一堂に会して気軽な雰囲気の中で語り合う。

5 実施内容

司会進行:FD・SD委員長 矢野先生

<1>全体的な説明(幼児教育科長 坪井先生)

- ① 本日のFD・SDの主旨についての説明
- ② 三つのポリシーについての説明
- ③ 卒業時満足度調査についての説明
- ④ 学修行動調査についての説明

<2>意見交換

- ① 作短の感想(授業・サークル活動・行事等)
 - 作短での 2 年間を振り返って
 - 教学面での振り返り
 - 学生生活
- ② 2 年間の授業や実習を終えて、これから更に学びを深めていきたいこと、もっと学んでおけば良かったこと
- ③ 保育者として働いていくために役立つ授業は、どのようなものか?
- ④ 後輩に伝えたいこと。

6 レポート

テーマ:「あなたにとって作新学院大学女子短期大学部とはどのような場所ですか?」

【主な学生意見】

① 作短の感想(授業・サークル活動・行事等)

○ 作短での2年間を振り返って

- ・クラス分けがされていたので、クラス学生をはじめ多くの友達ができ仲良くなれた。
- ・行事が多く、季節の移り変わりを感じることができた。
- ・学生生活は充実しており、とても内容の濃い2年間であった。

○ 教学面での振り返り

- ・高校でも幼児教育を学んでいたが、作短ではより深い知識を学ぶことができた。
- ・実践的な内容の授業が多く、実習で子どもたちを楽しませるのに役立った。
- ・ピアノはまったく弾けない状態で入学したが、2年間で苦手意識もなくなり弾けるようになった自分に感動した。
- ・ピアノの授業では、人前で弾くことがあり、実習中も堂々で行うことができた。

○ 学生生活

- ・様々な場面で先生方や他の学生からアドバイスやフィードバックをしてもらえるのが良かった。
- ・わいわいひろばでは、実際に参加している子どもたちや保護者と接する貴重な機会を得られた。

【主な学生意見】

② 2年間の授業や実習を終えて、これから更に学びを深めて行きたいこと、もっと学んでおけば良かったこと

- ・就職先が決まった後に施設実習に行ったが、施設実習の時期が先だったら進路も変わっていたと思う。
- ・先生にちょっと遠慮してしまったが、もっと積極的になればよかった。

【主な学生意見】

③ 保育者として働いていくために役立つ授業は、どのようなものか？

- ・上記意見と重なるため省略

【主な学生意見】

④ 後輩に伝えたいこと。

- ・提出物の期日は厳守すること。
- ・実習先を選ぶ際には、遠方でも興味がある園や施設があったら積極的に選択した方が良い。
- ・何事も失敗を恐れずに挑戦した方が良い。
- ・2年間あっという間なので意識をして学生生活を送ってほしい。
- ・行事の際には役員を決めはするが、任せきりにしないで、成功させるために全員で話あって協力した方が良い。

【主な学生意見】

その他

- ・課題を行う際に Teams と Webclass では使い勝手に違いがあり、どちらが良いかと聞かれれば Teams の方が良い。
- ・授業の遅刻が許される基準を統一して欲しい。

主な教職員の意見

【主な教職員の意見】

- ・本日の作短生の意見を聞いて、入学した当初よりもきちんと物事を見られるようになっていて、成長を感じた。
- ・実習で授業に出ることができなかった学生へのフォローを改善できないか検討するきっかけとなった。
- ・授業で使用しているツールについて学生の感じていることや思っていることがわかった。(Webclass、Forms)
- ・学生同士の情報伝達(情報共有)について知ることができた。(グループ LINE の存在について)

学生から提出されたレポート(参考)

テーマ:「あなたにとって作新学院大学女子短期大学部とはどのような場所ですか？」

詳細は別添資料「レポート」参照

【主なレポートの意見】

- ・学ぶ場所ではあるが、友達と意見を交わしたり、人間関係を築くことのできる場所だった。同じ夢・目標持つ友人と課題をこなす良い思い出ができた。(A)
- ・保育者になるという同じ目標を持った学生がみんなで授業を受けたり課題を頑張ったり、イベントを楽しんだりして充実した2年間を過ごすことができた。(B)
- ・行事・ボランティア・実習・役員の経験をすることは保育者になるうえではもちろん、社会に出るうえで大切なことをたくさん身につけることができた。(C)
- ・行事や実習が豊富で普段では得ることができないことを経験することができて最高の場所だった。(D)
- ・作短は新しい発見ができるわくわくした場所だった。グループワークなどでは友人の意見などを聞いて考え方の違いに気づくことがあり参考になることが多かった。(E)
- ・私にとって作短は学生寮のような場所だった。家にいるような安心感がありながら、短大で過ごす2年間はあっという間だった。先生方は寮母のようで相談もしやすくとても良い場所だった。(F)

当日の風景



以 上